平成２４年１１月４日

平成２４年度プレーオフのベストショット

奈多グラウンド　奈多フェニックス　対　新町パイレーツ戦

平成８年以来１６年ぶり３度目の和白リーグ制覇！　奈多フェニックス安河内嘉信監督、歓喜の胴上げ。

写真：三苫三球会　中村元

奈多グラウンド

奈多フェニックス　５１０００　６　　池見○－実延

新町パイレーツ　　００２００　２　　吉田●－桐島

ＨＲ：今林文彦（奈多フ）２ＢＨ：今林英二（奈多フ）

共にリーグ戦を１１勝２敗（勝ち点２２）でプレーオフに進出した奈多フェニックスと新町パイレーツは、平成２４年度のチャンピオンを決めるべく、奈多グラウンドで激突した。戦前の予想では、開幕３試合で１勝２敗とつまづきながらも驚異の１０連勝で波に乗るパイレーツに対し、開幕から首位を守りながらも最終戦で敗れ、プレーオフになったフェニックスとでは、パイレーツ有利とする見方が強かった。

１０月２８日が雨で流れ、１週間空いた１１月４日（日）快晴の下、朝７：００プレーボール。

先攻のフェニックスは、最多勝を獲得したパイレーツ吉田投手の立ち上がりを捉える。先頭の西藤選手がセンター前で出塁すると、２番今林文彦選手が手堅く送りバント・・・失敗。そこで強攻策に転じたのが功を奏し、打球はバント守備で前かがりの左中間を抜ける。一塁から西藤選手が長躯ホームインし先取点を挙げると、続いて今林文彦選手もホームを狙う。毎試合前のシートノックで鍛えられたパイレーツの中継プレーがそれを阻もうとするが・・・パイレーツ桐島捕手のタッチをヘッドスライディングで掻い潜ってホームイン。続く３番今林勇太選手がセンター前、４番安河内祐貴選手がレフト前、５番今林英二選手が二塁打を放ち５連打で４点目。更に、リーグ戦で安定した守備を誇ってきたパイレーツ牟田遊撃手がエラーで５点目を献上。続く二回表二死一塁から、平凡なレフトフライを今度は伊藤左翼手がエラー。スタートを切っていた一塁ランナー今林文彦選手が還り６－０。信じられない展開に歓喜のフェニックス、沈黙のパイレーツ、どよめく観客たち。６点を追うパイレーツは、二回裏一死から６番山野井選手がフェニックス池見投手から初ヒット。二死となるも８番大前選手が四球を選び、先ほど痛恨のエラーをした伊藤選手に打順が回る。ここで伊藤選手はチャンスを広げる四球を選び満塁として、初回５点目を許した１番牟田選手に。何とか自分のバットで早いうちに追いつきたい牟田選手ではあったが、センターフライで絶好のチャンス逃す。三回表をＷプレーで無失点に抑えたパイレーツはその裏、２番升井選手が死球、３番白岩選手がセンター前。ＷＰで無死二三塁とすると、４番桐島選手のレフト前２点タイムリーで４点

差とした上、桐島選手は相手の隙を突いて一気に二塁を陥れる。パイレーツに流れが傾きかけたが、展開的にバントも考えられた５番大濱選手が簡単にサードフライ。続く６番山野井選手のサードゴロで送球間の三塁を狙う桐島選手の動きを察知したフェニックス西藤三塁手が機転を利かせ、偽投で飛び出した桐島選手をタッチアウト。続く７番八坂選手が四球で二死一二塁とし、８番大前選手が一塁後方へのポテンヒット。焦りが生んだ攻撃リズムの乱れはフェニックスに味方するのか、二塁ランナーがホームへ突入すると思い、三塁を狙った一塁ランナーの八坂選手が二三塁間で挟まれタッチアウト。最大のピンチを２点で食い止めたフェニックスベンチには安堵の色、一気に追いつきたかったパイレーツベンチには苦渋の色が滲み出ていた。四回は両チーム共に相手エラー等で一二塁とするも無得点で最終五回に突入。フェニックスは先頭５番今林英二選手がこの日２本目のヒットで出塁すると、６番実延選手がキッチリ送り、打力のある池見選手につなぐ。しかし、ここはパイレーツ吉田投手がしっかり無失点に抑え、その裏の攻撃にすべてを託す。パイレーツ最後の攻撃は、前の打席でタイムリーを放った４番桐島選手からだったが、ライトフライに打ち取られる。続く５番大濱選手はライト前で出塁すると、６番山野井選手も四球を選び一死一二塁。ここで７番八坂選手の鋭い打球が三遊間を襲う。しかしこれを予め三遊間を締めていたフェニックス今林勇太選手が好捕し三塁フォースアウト。最後は大前選手を三振に打ち取り、奈多フェニックスが１６年ぶり３度目の優勝を果たした。

試合後マウンドで、奈多フェニックスの安河内嘉信監督の歓喜の胴上げに続き、エース池見投手も宙に舞った。少数精鋭を揃えた奈多フェニックスの優勝に会場からは惜しみない拍手が送られ、選手たちの顔には晴れやかな笑顔が宿り、いつもは厳しい安河内監督の目には光るものが見えた。しかしその目は来期を見据え、今度は追われる立場としての責任を感じているようでもあった。

チーム再建三ケ年計画の集大成を最高の形で終わりたかったパイレーツではあったが、初の栄冠は甘いものではなかった。選手たちの目にはフェニックスの胴上げがどのように映っただろうか？しかしこの敗戦の悔しさが「必要なもの」であったと、きっと近い将来思い返される日が来るだろう。その時はパイレーツ大野監督が宙に舞っている時かもしれない。（記事、写真：奈多サンデーズ　八島久徳、写真：三苫三球会　中村元）

緊張がピークに達する試合前の整列。

どんな結末が待っているかまだ誰も知らない。

パイレーツ先発は、最多勝を獲得したエース吉田崇浩投手。

フェニックス１番西藤選手がいきなりセンター前を放つ。

2番今林文彦選手が送りバントを試みるも失敗し強攻策へ。

強攻策が奏功し左中間への当たりで1塁から西藤選手がホームイン。

ヘッドスライディングで2点目を挙げる今林文彦選手。

2ランを放ちベンチへ戻ってきた今林文彦選手を歓迎。

優勝への原動力、フェニックス1・2番コンビ。

フェニックス3番今林勇太選手もセンター前で続く。

フェニックス4番安河内祐貴選手もレフト前で続く。

5番今林英二選手の当たりでホームインする安河内選手。

二塁へ向けて疾走するフェニックス今林英二選手。

２点タイムリー二塁打を放ってベース上でニッコリ。

初回からマウンドへ集まるパイレーツ内野陣。

５点目のホームインでベンチに戻った今林英二選手。

ショートエラーで５点目を挙げたフェニックス池見選手。

初回から大量点を入れた奪ったフェニックス。

一ケ月登板間隔の空いた先発池見投手が初回を抑える。

池見投手をリードするフェニックスの要、実延新伍捕手。

二回表一死から2番今林文彦選手がサード内野安打で出塁。

頭上を越えそうなセンターライナーを升井選手が好捕して2アウト。

高々と舞い上がったフライを構える伊藤左翼手がまさかの落球。

スタートを切っていた今林文彦選手が6点目のホームイン。

痛恨のエラーをしてしまい、ベンチ前で謝る伊藤選手。

6－0となり、渋い表情のパイレーツベンチ。

二回裏一死からパイレーツ6番山野井選手が初ヒット。

二死となるも8番大前選手が四球で出塁し一二塁とする。

先ほどのエラーを挽回したい伊藤選手も四球を選び満塁に！

ベンチの期待を一身に受けて打席に向かう1番牟田選手。

独特のフォームで挑む1番牟田選手だが・・・。

牟田選手の打球を安河内中堅手が掴み、ピンチを脱する。

三回裏、円陣を組んでパイレーツ大野監督から檄が飛ぶ！

パイレーツは、先頭の2番升井選手が執念で死球を得る。

続くパイレーツ3番白岩選手もヒットで出塁し無死一二塁。

WPで無死二三塁として、4番桐島選手の打球は？

見事三遊間を抜く2点タイムリー。これぞ4番の仕事！

サードランナー升井選手に続いて・・・

セカンドランナー白岩選手もホームイン。

打った桐島選手も思い切りよく二塁を陥れる。

更に次の塁を目指すパイレーツ桐島選手。

功を焦ったか、桐島選手三塁上でタッチアウト。

八坂選手も次の塁を取ろうとしてタッチアウト。走塁ミスが重なる。

パイレーツの猛攻を2失点で凌いだフェニックスベンチでハイタッチ。

円陣を組んで対策を練るパイレーツベンチ。

粘るパイレーツ打線に対し、必死に守るフェニックス。

四回裏、フェニックス内野陣の隙をついて出塁する升井選手。

難しいフライをキャッチするフェニックス今林英二二塁手。

最終回、落ち着いてバント処理をするパイレーツ吉田投手。

最終回裏、一死からライト前を放つパイレーツ5番大濱選手。

まだいける！

四球を選び、一塁上でガッツポーズの山野井選手。

パイレーツ応援団も寒い中気持ちがこもる。

大詰めの場面で外野とコンタクトをとる今林勇太遊撃手。

7番八坂選手の打球は痛烈ながらショートの守備範囲に。

三塁フォースアウトとなる大濱選手。さぁ、優勝まであと一人！

最後まで落ち着いて試合を見守るフェニックスベンチ。

最後の打者、大前選手を三振に打ち取り、ゲームセット！

抱き合って喜びを噛み締めるフェニックスナイン。

１時間２０分４２秒の激闘のマウンドが選手を見守る。

フェニックス安河内嘉信監督、悲願の胴上げ！

腰痛を押して投げ抜いたエース池見投手の胴上げ！

平成24年度　和白ソフトボールリーグチャンピオン

奈多フェニックス

プレーオフ編集後記

ＷＳＬの皆さん、コンニチハ！

１１月４日に平成２４年度のチャンピオンを決めるプレーオフが奈多グラウンドで行われました。

いつもの試合の振り返りは試合速報をご覧下さい。

結果的に６ー２でフェニックスが勝利し、１６年ぶり３回目の優勝しました。

試合前、パイレーツは６時から練習開始、１週空いたとは言え優勝へのモチベーションは最高潮。一方フェニックスは、６時半前頃から集まり始め、ボチボチ普段通りの練習。その光景を見ていた執行部、運営委員の方々、詰め掛けた観客もパイレーツ優勢を感じていたでしょう。
しかし蓋を開けてみれば初回からフェニックス打線が最多勝を獲得したパイレーツ吉田投手に襲いかかり、初回で５点を先制し、二回にも１点追加し６点をリード。誰がこんな展開を予想できたでしょうか？
試合後フェニックス安河内監督にお話を伺ったところ、「初回が全てだった。うちはいつも通り戦っただけ」とのこと。プレーオフだからといって何も着飾らない自然体の勝利と言ったところでしょうか。
一方、敗れたパイレーツ大野監督曰く「フェニックスは毎年優勝争いに絡み、プレーオフも経験している。うちは初めて優勝が手の届くところに来て、舞い上がってしまった。″経験の差″でしょうか」とのこと。
パイレーツの４番の桐島捕手に話を聞くと、「リーグ戦での勢い、メンバー、相手フェニックスの試合前の光景を見て、もう優勝は間違いないと思った。リーグ戦ではもっと散らしていたのに、吉田投手の球を集め過ぎた。」と悔しさを滲ませていました。
フェニックスの池見投手も試合中「全然球が行かない」と１ヶ月空いての公式戦に決して本調子でなかったものの、流石百戦錬磨の投手はここ一番で力を発揮し、優勝を掴みました。安河内監督に続いて胴上げされた時の笑顔が印象的でした。

これで全試合が終了したので、残すは１２／９（日）１５時から三苫公民館で行われる納会を残すだけとなりました。
表彰の対象者を決める会議が１１／１５（木）に執行部で行いますので、対象者は納会での表彰をお楽しみに！
今年のベストショット大賞もお楽しみに！